

# 積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和3年10月6日 No. 28 文責：佐野紳二

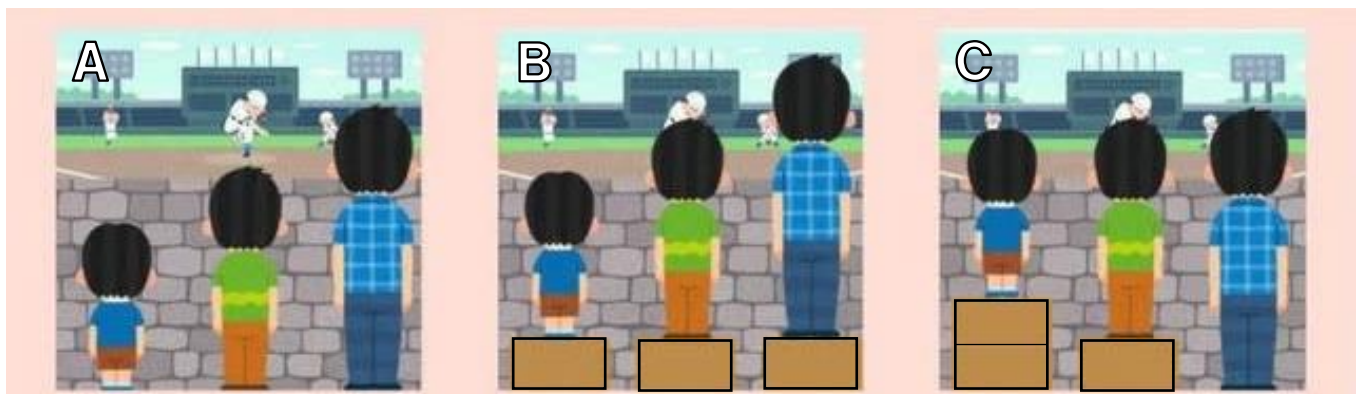
## 合理的配慮・ユニバーサルデザインとは？

パラリンピックに出場する選手の中には、補助具を使って競技をするアスリートが多くいます。車いすテニスや車いすバスケットボールでは、選手は巧みに車椅子を扱いますし、陸上競技では義足を使用している選手もいます。ボッチャの選手の中には、ボールを転がすスロープを使って競技をする人もいます。

一番有名なのは、走り幅跳びのマルクス・レーム選手でしょうか？彼の持つ世界記録は8m62cmで、これは東京オリンピックの男子走り幅跳びの金メダリストの記録、8m41cmを上回っています。



一方、日常生活の中でも、車いすを使う方はたくさんいます。視覚障がいのある方は白杖を使ったり、盲導犬を使ったりします。こうした方々を見て、「あの人だけ道具を使っていて、ずるい」という人もあまりいないと思います。今日は障がいのある方が健常者と同じような生活をするように行われる「合理的配慮」と「ユニバーサルデザイン」について考えてみたいと思います。



上の絵は、合理的配慮や【平等】と【公平】の違いについて説明されるときによく使われます。3人の子どもが野球を観戦しようとしてきました。3人の前には壁があります。

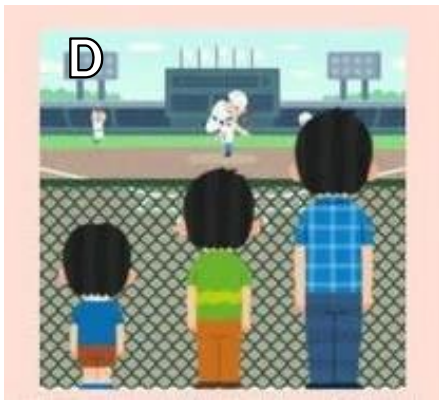
Aの絵：何も配慮をしないと背の低い2人の子は見えません。

Bの絵：木箱を3つ用意して【平等】に1人が1個ずつ使うようにしました。真ん中の子は見えるようになりましたが、左の背の小さい子はまだ見えません。

Cの絵：背の大きい子が木箱を使わないで、その分、背の小さい子には木箱を2つ使うようにして、みんなが【公平】に見えるようにしました。これで3人とも同じ条件で観戦できます。

Cの絵を見て、「小さい子が木箱を2つ使うのはずるい」という人はあまりいないでしょう。木箱を使わない背の大きい子からも文句は出ないはずです。このように、本人の努力ではどうしてもできない身体機能の差がある場合、【平等】だけではない配慮が必要です。

Cの絵のような配慮のことを「合理的配慮」といいます。何かしらのハンディキャップがある場合は、それに対する配慮が必要になります。そこで【平等】にしようということ、均一にしたのでは、【公平】だとは言えません。みんなに【公平】になるように考えようとしたとき、そのために必要になる配慮が「合理的配慮」だと、私は考えています。



実は、この3枚の絵には、もう一枚、4枚目の続きの絵があります。左のDの絵のように、網目のフェンスに変えれば、背の大きい子と小さい子の差は生まれません。こうした環境調整のことを「ユニバーサルデザイン」と言います。その差が生じない環境が整えられたら、ハンディキャップはハンディキャップではなくなります。

ただし、A～Cの絵の石垣をネットのフェンスに作り替えるのは大変です。なので、合理的配慮に比べると、ユニバーサルデザインを社会の中に普及させるためにはある程度の時間とお金が必要になります。



もう一つ「合理的配慮」がよくわかる絵があります。左から車いすで生活している人、背の大きい男性、中背の女性、背の小さい子どもの4人が自転車に乗ろうとしています。上の絵では【平等】に均一の自転車が4人に与えられました。女性にはちょうどいい大きさですが、子どもには大きすぎ、男性は小さくて乗りにくそうです。もちろん、車いすで生活している人は乗れません。

下の絵ではそれぞれに適した自転車が準備されました。これで【公平】に全員が自転車に乗れます。「合理的配慮」がなされ、ハンディキャップがハンディキャップではなくなる例です。

パラリンピックをきっかけに「共生社会」について考えてきましたが、「誰もが暮らしやすい世界」をつくるためには、こうした「ちょっとした配慮」が必要だと思います。もっと言えば、こうした配慮をすることが「特別」なことではなく、「あたり前」になって初めて、共生社会が成り立つのではないのでしょうか。

1年生から6年生まで発達段階が大きく違う子どもたちが一緒に生活する小学校では、さまざまな場面でこうした配慮が必要とされることがあります。また、一人一人得意なことや苦手なことがあります。さまざまな価値観を持つ子どもたちが一緒に生活をする場所ですから、学校の中、あるいは学校の中でも配慮が必要なことはたくさんあります。

まず、教職員と保護者が「合理的配慮」ということを正しく理解して、さらに、子どもたちも子どもたちなりに理解して、お互いの違いを認め合って付き合っていけると、ハンディキャップをもつ子も含め、全員が気持ちよく過ごせる学校になります。そして、そういう子どもたちが大人になれば、日本はもっとステキな国になっていくと思います。まずは本校がそんな学校になれるよう、教職員が一丸となりがんばっていきたくと思っています。

## 今週の「イイね！」 6年生のそうじが「イイね！」

楡形地区では、集中して掃除をすることを目標に、すべての学校で無言清掃に取り組んでいます。楡形北小の子どもたちは、みんな一生懸命掃除をしています。特に6年生の掃除の仕方は素晴らしいです。毎日無駄なおしゃべりをせず、自分の仕事をしっかりする姿は、全校の見本にふさわしいと思います。6年生の掃除の仕方、とっても「イイね！」

(右の写真は、ちょっと前の掃除のようすになります。)

